

平成27年9月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年2月13日

上場会社名 株式会社ウェッジホールディングス 上場取引所 東  
 コード番号 2388 URL <http://www.wedge-hd.com/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 此下 竜矢  
 問合せ先責任者 (役職名) 開示担当 (氏名) 横山 幸弘 (TEL) 03-6225-2207  
 四半期報告書提出予定日 平成27年2月13日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年9月期第1四半期の連結業績(平成26年10月1日～平成26年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年9月期第1四半期	2,084	50.7	332	—	263	—	32	—
26年9月期第1四半期	1,383	39.9	△102	—	△50	—	△56	—

(注) 包括利益 27年9月期第1四半期 1,137百万円(456.8%) 26年9月期第1四半期 204百万円(△68.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年9月期第1四半期	1.19	1.17
26年9月期第1四半期	△2.09	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年9月期第1四半期	29,876	12,238	21.6
26年9月期	27,651	11,098	21.6

(参考) 自己資本 27年9月期第1四半期 6,449百万円 26年9月期 5,980百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年9月期	—	0	—	0	0
27年9月期	—	—	—	—	—
27年9月期(予想)	—	0	—	0	0

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年9月期の連結業績予想(平成26年10月1日～平成27年9月30日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	4,000	45.4	250	△17.0	250	△28.3	60	50.5	2.20
通期	9,000	50.1	700	125.0	700	79.6	150	85.9	5.51

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
 新規 社(社名) 、除外 社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年9月期1Q	27,263,600株	26年9月期	27,263,600株
② 期末自己株式数	27年9月期1Q	39,400株	26年9月期	39,400株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年9月期1Q	27,224,200株	26年9月期1Q	27,224,200株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P2「連結経営成績に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 .....	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	4
4. 四半期連結財務諸表 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(セグメント情報等) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当社グループは当第1四半期連結累計期間においては、増収増益となりました。売上高は20億84百万円（前年同四半期比50.7%増）、営業利益は3億32百万円（前年同四半期は1億2百万円の営業損失）、経常利益は2億63百万円（前年同四半期は50百万円の経常損失）、四半期純利益は32百万円（前年同期は56百万円の四半期純損失）となりました。

ファイナンス事業において2014年に買収いたしましたThanaban CO., LTD. が大幅に貢献したこと、またタイ王国及びカンボジア王国における営業活動の結果として営業貸付金が増加したことにより、四半期売上高が過去最高額を計上しました。さらに①積極的に投資を継続してまいりましたカンボジア王国におけるファイナンス事業が成長を果たして利益化し、さらに急速に利益が増加しつつあること、②タイ王国における政情不安等が解消されて支払い遅延が減少しつつあること、③前四半期までに貸倒引当金の繰入や資産売却損を計上し終えた上に、新規貸付審査基準の厳格化によって営業貸付金の質が向上したことなどにより、大幅な営業利益増を実現しました。

一方、日本国内のコンテンツ事業は、当第1四半期連結累計期間においてはコンテンツの端境期と重なり今後の売上実現に向けての仕込み期間となった結果、減収減益となりました。

また当社持分法適用会社にあたりますゼボラリゾートが、当第1四半期連結累計期間に取り込まれております7月から9月までの期間において全面的な改装を行い、ホテルを一時閉鎖いたしました特殊要因によって25百万円程度の利益押し下げ要因となりました。

当第1四半期連結累計期間における当社の関係する日本、タイ、カンボジアをはじめとするCLMV諸国などのマクロ経済につきましては、以下のような状況でありました。日本は消費税増税後の停滞ないし後退状況であり、タイは2013年からの政治混乱とヨーロッパ並びに中国向け輸出の不調から停滞状況でありました。一方、カンボジアをはじめとするCLMV諸国などは好調でありました。当社としては今後とも短期的な景気判断や収益に適切に対処しながらも囚われることなく、中長期的視点で経済成長する地域に適切に投資し、当社の成長を目指していくものです。

以上のように、当社グループの掲げる中期経営計画「アクセラプラン2012」に定めた方針に基づき、事業展開を加速しております。

なお、上記金額に消費税等は含まれておりません。

セグメントの業績は次のとおりであります。

#### ① ファイナンス事業

ファイナンス事業の当第1四半期連結累計期間における業績は、増収増益となりました。ここ数年にわたって行ってまいりました事業拡大のための投資活動が実を結びつつあり、これにマクロの不安定感が減少したという環境要因が加わった事によるものです。

またファイナンス事業において①カンボジア王国におけるファイナンス事業が成長を果たして利益化し、さらに急速に増加しつつあること、②積極的に投資を継続してまいりましたタイ王国において政情不安等が解消されて支払い遅延が減少しつつあること、③前四半期までに過去の貸付けに対して貸倒引当金の繰入や資産売却損を計上し終えた上に、新規貸付審査基準の厳格化によって営業貸付金の質が向上したことなどにより、大幅な利益増を実現しました。

当事業は、タイ証券取引所一部に上場する連結子会社のGroup Lease PCL. が営むオートバイファイナンスを中心とし、審査や回収のノウハウに独自性を持ち、現在ではカンボジア王国を起点にASEAN全域への展開を目指しております。また、タイ王国国内で大型買収を実行し、タイ王国国外で積極的な事業活動を展開するための投資的施策を実行してまいりました。現状においてはこれらの投資的施策が順調に実を結びつつあると同時に、タイ国内の政治経済が安定しつつある中、営業貸付金の質が向上して利益率の回復基調が鮮明になっており、さらに向上すると予測しております。今後とも事業成長のため中長期的視点から投資を行うとともに、既存事業の収益向上に努めてまいります。

この結果、当第1四半期連結累計期間における現地通貨建ての業績は、売上高は5億61百万バーツ（前年同期比44.0%増）、セグメント利益（営業利益）は1億11百万バーツ（前年同四半期は0百万バーツのセグメント損失）となりました。

又、連結業績に関しては円安が大きな影響を与え、円建ての業績では、売上高は19億59百万円（前年同期比59.1%増）、セグメント利益（営業利益）は3億88百万円（前年同四半期は6百万円のセグメント損失）となりました。

## ② コンテンツ事業

コンテンツ事業は、減収減益となりました。これは当第1四半期連結累計期間がコンテンツの端境期と重なり、今後の受注となるコンテンツの仕込み期間となったこと等によるものです。

当事業は、主にトレーディングカードゲーム制作やエンターテインメント関連の書籍及び電子書籍の制作、音楽及び関連商品の製作を行っており、様々なコンテンツを商品化する企画制作・編集・制作に独自性を持ち展開しております。

売上高については、カードゲームのロイヤリティ収入が堅調に推移したものの、エンターテインメント関連の書籍類の編集事業について、コンテンツの端境期となったことから前年同期と比べて受注点数が減少した影響により減収となりました。

これらの諸活動の結果、当第1四半期連結累計期間における業績は、売上高1億24百万円（前年同期比17.5%減）、セグメント利益（営業利益）は23百万円（同47.0%減）と減益となりました。

## （2）財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比べて22億24百万円増加し、298億76百万円となりました。

流動資産は17億48百万円増加し、252億96百万円となりました。主な内訳はファイナンス事業における契約残高増加に伴う営業貸付金の増加17億59百万円であります。

固定資産は4億76百万円増加し、45億79百万円となりました。主な内訳は有形固定資産の増加48百万円、無形固定資産の増加58百万円、投資その他の資産の増加3億68百万円であります。

流動負債は4億84百万円減少し、109億39百万円となりました。主な内訳は短期借入金の減少32億96百万円、1年内返済予定の長期借入金の増加28億93百万円であります。

固定負債は15億69百万円増加し、66億98百万円となりました。主な内訳は長期借入金の増加14億22百万円であります。

純資産は11億39百万円増加し、122億38百万円となりました。主な内訳は四半期純利益の計上による利益剰余金の増加32百万円、為替換算調整勘定の増加4億35百万円、少数株主持分の増加6億69百万円等であります。

## （3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高については計画通り推移し、利益面では計画を上回っております。当四半期の特殊要因としてが、前連結会計年度に計上した貸倒引当金の戻し入れ等が発生しております。また、今後引き続き海外事業の拡大に伴う投資的費用の増加を見込んでおり、利益の増加要因・減少要因がそれぞれ存在している状況となっております。

したがって、平成27年9月期の第2四半期連結累計期間及び通期の業績予想につきましては、平成26年11月14日に公表した業績予想数値に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動  
該当事項はありません。
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用  
該当事項はありません。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
該当事項はありません。

## 4. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,499,486	1,469,635
受取手形及び売掛金	103,031	94,642
営業貸付金	22,237,317	23,996,712
商品及び製品	8,303	8,823
仕掛品	16,784	24,103
原材料及び貯蔵品	76,100	86,131
繰延税金資産	323,831	361,235
その他	1,049,167	1,082,495
貸倒引当金	△1,765,466	△1,826,865
流動資産合計	23,548,558	25,296,914
固定資産		
有形固定資産	326,262	375,219
無形固定資産		
のれん	720,840	762,770
その他	450,958	467,707
無形固定資産合計	1,171,799	1,230,478
投資その他の資産		
関係会社株式	1,689,321	1,805,163
長期貸付金	619,919	619,919
破産更生債権等	404,655	268,667
繰延税金資産	84,125	57,409
外国株式購入預託金	24,218	24,218
その他	186,199	465,102
貸倒引当金	△403,648	△266,798
投資その他の資産合計	2,604,792	2,973,681
固定資産合計	4,102,854	4,579,379
資産合計	27,651,412	29,876,294
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	72,216	67,717
1年内償還予定の社債	20,000	20,000
短期借入金	4,352,932	1,056,283
1年内返済予定の長期借入金	6,457,880	9,350,886
未払法人税等	17,564	5,142
引当金	125,169	8,699
その他	377,517	430,500
流動負債合計	11,423,280	10,939,229
固定負債		
社債	1,691,034	1,827,307
長期借入金	3,380,713	4,802,893
繰延税金負債	28,904	36,834
退職給付に係る負債	20,876	23,284
その他	8,305	8,546
固定負債合計	5,129,835	6,698,866
負債合計	16,553,116	17,638,095
純資産の部		

株主資本		
資本金	1,956,525	1,956,525
資本剰余金	3,138,245	3,138,245
利益剰余金	286,577	319,088
自己株式	△40,961	△40,961
株主資本合計	5,340,387	5,372,898
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	640,602	1,076,365
その他の包括利益累計額合計	640,602	1,076,365
新株予約権	30,206	32,257
少数株主持分	5,087,100	5,756,678
純資産合計	11,098,296	12,238,199
負債純資産合計	27,651,412	29,876,294



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成25年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年10月1日 至平成26年12月31日)
売上高	1,383,049	2,084,334
売上原価	472,635	512,434
売上総利益	910,413	1,571,899
販売費及び一般管理費	1,012,496	1,239,628
営業利益又は営業損失(△)	△102,082	332,270
営業外収益		
受取利息	10,489	8,882
持分法による投資利益	39,976	-
為替差益	2,924	-
その他	375	1,000
営業外収益合計	53,766	9,882
営業外費用		
支払利息	385	369
社債利息	245	24,466
為替差損	-	26,824
持分法による投資損失	-	25,194
その他	1,176	1,869
営業外費用合計	1,807	78,723
経常利益又は経常損失(△)	△50,124	263,429
特別利益		
持分変動利益	515	-
特別利益合計	515	-
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前 四半期純損失(△)	△49,608	263,429
法人税、住民税及び事業税	49,474	647
法人税等調整額	△36,437	27,901
法人税等合計	13,036	28,549
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株 主損益調整前四半期純損失(△)	△62,644	234,880
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△5,841	202,369
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△56,802	32,510

## 四半期連結包括利益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成25年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年10月1日 至平成26年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△62,644	234,880
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	275,027	761,934
持分法適用会社に対する持分相当額	△8,023	141,035
その他の包括利益合計	267,003	902,970
四半期包括利益	204,358	1,137,851
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	48,070	468,273
少数株主に係る四半期包括利益	156,287	669,577

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第1四半期連結累計期間(自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日)

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成26年10月1日 至 平成26年12月31日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 3
	ファイナ ンス事業	コンテン ツ事業	計				
売上高							
外部顧客への 売上高	1,231,737	150,934	1,382,671	377	1,383,049	—	1,383,049
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	1,231,737	150,934	1,382,671	377	1,383,049	—	1,383,049
セグメント利益 又は損失(△)	△6,902	45,070	38,167	△95,474	△57,306	△44,776	△102,082

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、新規事業開発等及び投資育成事業を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失の調整額△44,776千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、その主なものは本社の管理部門に係る費用であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自 平成26年10月1日 至 平成26年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 3
	ファイナ ンス事業	コンテン ツ事業	計				
売上高							
外部顧客への 売上高	1,959,551	124,741	2,084,292	41	2,084,334	—	2,084,334
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	1,959,551	124,741	2,084,292	41	2,084,334	—	2,084,334
セグメント利益	388,937	23,857	412,794	△40,070	372,724	△40,453	332,270

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、新規事業開発等及び投資育成事業を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△40,453千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、その主なものは本社の管理部門に係る費用であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。